１．地域獣医療の中核としての役割を担う家畜保健衛生所の取り組み

玖珠家畜保健衛生所
○里　秀樹

【はじめに】

管内は県内でも主要な畜産地帯であり、牛を対象とした診療獣医師は日田地域4名、玖珠地域9名が従事している。そのうち、県農業共済組合西部家畜診療所（以下、共済）は、平成25年度に無獣医となったが平成26年度に新たに2名の新規獣医師が配属され再開された。家畜保健衛生所（以下、家保）は地域獣医療の中核として、血液・糞便・乳汁等の各種検査、死亡牛等の病性鑑定、自衛防疫による各種予防注射の調整及び生産性向上を目的とした繁殖検診を実施し、診療獣医師と連携して畜産農家の保健衛生を担う役割を果たしてきたので報告する。

【取り組み】

１　血液・糞便・乳汁等の一般検査

診療獣医師や生産者からの依頼に基づき、迅速な検査結果を提供。

２　死亡牛等の病性鑑定

原因不明の死亡牛等は、診療獣医師からの依頼に基づき病理解剖し病性鑑定を実施。

３　各種予防注射の調整

子牛の予防注射や牛異常産予防注射等が適期に注射できるよう診療獣医師と調整。

４　繁殖検診巡回

平成26年7月から共済の診療獣医師と連携して、日田市の3地域の遠隔地を中心に繁殖検診を毎月実施し、妊娠鑑定や繁殖障害牛の摘発・治療を実施。

【成果及びまとめ】

１　一般検査の依頼は、年間約200件（平成24年～27年度上期まで756件）。肉用牛及び乳用牛の成牛は牛白血病に関連した検査依頼が多く、家畜共済による牛白血病の認定頭数は直近4年間で80頭。肉用牛の子牛は慢性の下痢や肺炎を伴う発育不良の検査依頼が多い。乳房炎の検査は関係機関と連携して乳質及び生産性の向上に取り組んでおり、個体毎の検査から農場単位の検査にシフト。牛の個体識別番号から個体の生存・死亡等を調査して、家保の検査結果を検証した結果、毎年度90％以上が適当であった。

２　死亡牛等の病性鑑定は、年間約40頭（平成24年～27年度上期まで143頭）。可能な限り診療獣医師の立会いで病理解剖し、診療及び検査結果との整合性を確認。

３　肉用牛農家への予防注射体制を確立し、子牛市場上場牛へのワクチン接種率は100％で、ワクチンのロス率（▲6％前後）も他の地区に比べ断然低い。今後、乳用牛農家への牛異常産の予防注射の推進が必要（搾乳牛頭数に対する推定接種率28％前後）。

４　繁殖検診巡回では、平成27年度から家畜共済特定疾病損害防止事業を利用して、繁殖障害牛25頭の治療を巡回時に実施。共済の診療件数も徐々に増加。